

平成23年（2011年）年頭所感

日本化学繊維協会
会長 日覺昭廣

（はじめに）

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は日本化学繊維協会の活動に対して、関係各位から多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

（経済環境について）

日本経済は、2008年秋のリーマンショックによる急激な景気後退の後、企業の懸命な経営努力、輸出を中心とした回復、並びに政府による景気刺激策の下支えなどにより2010年はプラス成長に転じました。先行きの見通しについてはデフレの長期化や円高の定着など不透明な状況にあります。

一方、昨年の世界経済は全体としては4%台の成長率を維持しながら回復する中、地域別に見ると中国やインドを中心とするアジアの新興国経済が躍進するなど、今後の成長余力の格差が拡大する方向にあり、大きな構造転換期にあると言えます。

（化合繊産業を取り巻く環境について）

このような状況下、2009年の世界の化合繊生産量は前年比1.8%増の4,640万トン（ピーク時である2007年の97%水準）まで回復しました。国・地域別では、欧米や日本、韓国、台湾などの減少に対し、中国が全体の55%を占めるなど、新興国の経済成長に伴う化合繊需要の安定的な増加に呼応した拡大が続いています。

今後も、中国、インド、アセアンなど新興国の経済成長に伴う産業・消費の高度化に伴い、一人当たり繊維消費量は化合繊素材の伸びを中心に順調に増加することが見込まれます。他方、FTA/EPAなどに伴いボーダーレスな通商環境が進展する中、化合繊の世界需給におけるギャップも再び拡大していくと予想されることから、国際間の競争がますます激化することが懸念されます。

（わが国化繊業界の状況）

この間、わが国の化繊業界においては、各社ごとに国内外の事業・生産体制の構造改革を進めつつ、衣料用途では定番品から高付加価値・高機能製品への

シフトに重点化した研究・開発に注力してきました。また産業資材用途においても、新興国の産業高度化が牽引する需要の成長を捉えるべく、各種高機能繊維のグローバルな事業展開を加速させるため、経営資源の重点配分を行っています。

こうした化繊メーカー各社による新商品・新技術の開発、新市場の開拓、環境問題と製品安全問題への対応に応じて、化繊協会では会員各社の取り組みをサポートするべく、通商や環境問題などにおける共通課題への対応で行政との連携を軸に、世界の中で存在感のある化繊業界として発展する方向を目指しています。

（化繊協会が目指す方向）

化繊協会では、2010年春に官民で纏めた報告書「繊維・ファッション産業政策のあり方について」に掲げられた「繊維産業が目指す5つの方向」をベースに、わが国の川中繊維業界および世界市場に対応していくことが重要であると考えます。その第一は「社会の新たなニーズを付加価値に変える」こと、第二は「トップレベルの技術を幅広く、新たな分野に展開する」こと、第三は「個別から連携へ」、第四は「内需依存から脱却して外需を取り込む」こと。第五は「感性をビジネスへ結びつけ、コスト競争から脱却する」ことです。

このような方向の実現に向けて、本年度（2010年7月～2011年6月）は、「医療・ヘルスケア」、「環境関連分野」について、欧米における異業種連携のあり方を参考にしながら、ユーザーニーズと化繊素材・技術が持つ潜在能力とのマッチングを図るための活動を強化していきたいと考えております。特に、幅広い高機能繊維を展開するわが国の化繊メーカーは、水処理膜、湿式不織布、炭素繊維、ナノファイバーなど先端分野で世界トップレベルの技術力を有しており、成長が期待できる事業分野での出口、すなわち最終製品を見据えた技術開発が重要になります。そのためには、素材メーカーとユーザーメーカーによる異業種連携や川中産地との連携を促進し、開発のスピードと成果を確実に上げていくことがますます必要になると考えます。

また、大きな成長が期待されるアジア市場を「内需」と捉え、特に2020年には現在の日本市場の4倍近い40兆円まで拡大すると予測される中国市場について、アッパー・ミドルゾーンの衣料品および衣料素材市場の動向調査を進め、対応力を強化して参ります。これに向けては、政府の「クールジャパン」戦略とも連動し、各種展示会を通じて、日本ならではの高性能・高感性素材の良さを活かした衣料品ビジネスの拡大を訴求して行きたいと考えております。

さらに、世界の化合繊産業の構造的な変化への対応として、世界の成長を牽

引するアジア化繊産業の発展を方向付けるため、本年5月に台北で開催される予定の第8回アジア化繊産業会議で積極的な役割を果たしていきたいと考えております。アセアンを中心にFTA/EPAの発効が相次ぎ、アジアが一つの市場になりつつある中、アジア9カ国・地域の化繊業界が一同に集い、化合繊の中長期の需給見通しを共有した上で、世界の化合繊の主要生産地域として健全な発展を目指す方策を議論したいと考えております。

年頭に当たり、関係各位のご活躍とご発展をお祈り申し上げますとともに、化繊業界に対する一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

以 上